

事業所の概要表

( 令和 3年 7月 1日現在)

事業所名	グループホームわかば					
法人名	有限会社メディケアサポート					
所在地	愛媛県松山市若葉町7番6号					
電話番号	089-968-3530					
FAX番号	089-968-3731					
HPアドレス	http://www.ikiiki-wakaba.com/					
開設年月日	平成 16 年 9 月 8 日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 ( 3 ) 階建て ( 2・3 ) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( デイサービスわかば )					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	17 名 ( 男性 1 人 女性 16 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	2 名	要介護2	6 名
	要介護3	1 名	要介護4	8 名	要介護5	0 名
職員の勤続年数	1年未満	5 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	7 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 8 人			
	その他 ( ヘルパー2級・初任者研修・准看護師 計4人 )					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( <input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	東村内科医院、カネコデンタルオフィス					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 5 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,200 円	朝食:	400 円	昼食:	400 円
	おやつ:	0 円	夕食:	400 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )					
その他の費用	水道光熱費	1日400円	円			
	共益費	1日200円	円			
	理美容代	実費	円			
	おむつ代	実費	円			

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間				
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間				
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間(文書開催含む)			
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者	
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民	
	<input type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input type="checkbox"/> 家族等		
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年7月29日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

令和2年12月11日 集計

家族アンケート	(回答数)	17	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3870104308
事業所名	グループホームわかば
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	森 莉映子
自己評価作成日	令和3年 7月1日

<b>【事業所理念】※事業所記入</b> 家庭的な環境と地域交流のもと ・笑顔とやさしさあふれる穏やかな暮らし ・個性を尊重し、健康的で生きがいがある生活 ・地域に支えられ、地域と共に生きるふれあいつくりをめざします	<b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b> (目標) 地域のニーズを知り、出来る事を見つける  (取り組んだ結果) ・町内会の方に、公民館の行事に参加してみてくださいとの話をいただいたので、三津浜公民館の行事について回覧板で把握するように、参加するようにした。 把握は出来たが、あまり参加することが出来なかった。地域に溶け込み顔を覚えてもらえるような成果は出ていないと思う。 ・会議の場所をデイサービスわかばからグループホームわかばに変更したことで、職員や入居者も参加できホームの雰囲気を知ってもらえるようになった。2階では開催しておらず、2階の職員は参加が出来ていない。	<b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> お盆の迎え火や送り火を事業所で行い、ご先祖様に手を合わせる機会をつつたり、鹿島神社の稲穂に田舎が杖の下に敷いて寝た寝形を奉納したりして、利用者が大切にできたことを重視した支援に取り組んでいる。  誕生日には、ケーキとプレゼントを用意して祝っており、他の利用者から一言ずつ、本人へお祝いの言葉をかける場面をつつている。涙もろい人が誕生日のプレゼントに「ありがとう」と言って泣くと、「よかったなあ」と言ってもいい泣きやすい利用者もいる。  数日前から新聞のチラシをみて「うなぎが食べたいな」と話したりして、土用の丑の日を楽しみに待って食事を楽しんでいる。秋祭日には、島で暮らしていた人の馴染みの味のちらし寿司を再現した。正月には「ビールが日本酒が飲みたくない」と希望があり、いろいろ考えてファンルコールビールで乾杯した。
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1) ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常会話の中で聞き取り把握し、反映できるように努めている。	◎		◎	介護計画作成前には、利用者の姿絵を中心に書き、その周りに「今の不安や苦痛」「生活上の希望」「今の楽しみ」などの情報を記入したアセスメントシートを作成している。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの生活歴を把握し反映したり、顔の表情や態度などをみて検討している。				七夕には短冊に願いを書く、正月には絵馬に目標などを書くなど、季節行事の中でも利用者が、願いや意向を表わせる機会をつつている。	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	新型コロナウイルスの感染予防の為、面会中止期間もあったが、電話をして話し合いをした。面会緩和後は面会時に話し合う機会を作っている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録に細かく記入したり、モニタリングをして記入している。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	申し送りやミーティング時に話し合い、決めつけにならないよう留意している。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時に聞き取りを行い把握に努めている。また、入居後は、本人との会話することで聞き取りをしている。			◎	新型コロナ感染症対策期間に入居した利用者については、家族とゆっくり話すことが難しいため、アセスメントシートを渡して利用者の情報を書いてもらっている。その後、聞いたことは職員が追加している。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活の中で、出来ることを探し実施し、記録するように努めている。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日常生活の中での小さな変化も記録し、様子を把握できるようにしている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	その前後の様子や会話など情報収集し、ミーティングなどで話し合い把握に努めている。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個別に介護記録等に記録し把握に努めている。					
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ミーティングで話し合う時間を設けており、検討している。			◎	計画作成前には、アセスメントシートを作成しており、ミーティング時は、それをもとにして職員で情報を出し合い検討している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	日々の会話や家族からの情報をもとにモニタリングし検討している。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ケアマネジャーを中心に、ミーティングで意見を出し合い検討している。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	コロナ禍で実施できない事もあったが、本人の思いを尊重し意向や以前の暮らしが反映できるように努めている。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	多職種の方の意見や本人・家族の意見を出し合い作成している。	○		◎	家族には事前に意向を聞いておき、計画に反映している。「自分のことは自分でしたい」という意向がある利用者には、リハビリの先生のアドバイスを採り入れていた。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度であってもできる事を把握し、本人の希望に沿った暮らしが続けられるように努めている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族や地域の方と協力できる体制は取れているが、介護計画に盛り込めていない。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画がいつでも確認できるように、介護記録に挟んでいる。介護計画実施チェック表にも記入している。			◎	毎月のミーティング時に全利用者の介護計画について意見等を出し合うことで把握や共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日の実施状況を介護計画実施チェック表に記入し、ミーティング時に話し合っている。			◎	介護計画実施チェック表に実施状況を○△▽/で記入している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	介護記録に細かく記入するようにしている。			△	介護記録に記入しているが、情報量は少なくその内容を探す必要がある。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	介護記録に記入し、申し送りやミーティングで話し合い記録している。			○	毎月のミーティング時に話し合っている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に1回または現状に変化があれば見直しをしている			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、6か月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎日介護計画実施チェック表に記入し、月末に評価している。			◎	月1回、介護計画実施チェック表をまとめ、評価しており、それをもとに、ミーティング時に現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	変化があればその都度検討し見直ししている。			◎	退院後に、身体状態に変化がみられ、介護計画の見直しを行ったケースがある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングで話し合うようにしている。緊急案件があれば話し合いをもつようにしている。			○	毎月、ミーティングを书面で行っている。事前に職員の見解等を聞いている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見を否定せず、全員が意見を出しやすいように明るい雰囲気づくりをしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月勤務表作成時にひいてい決め、事前に周知するようにしている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し確認してもらっている。急ぎの案件は口頭で伝えるようにしている。			◎	職員は、議事録の内容を確認してサインをするしくみをつくっている。重要な事柄は、管理者が口頭でも伝えている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日の朝夕の申し送りや業務日誌に記入し、共有できるようにしている。			○	朝夕の申し送りや業務日誌で申し送りを行っている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	介護記録や業務日誌に記入し伝えている。	◎				
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	1人1人と話をしてやりたいことを把握し、申し送り等で職員間で共有し、叶えられる様に努力している。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴や服選など、選択できる機会を作っている。自己決定が出来るよう選択肢を作り選んでもらえるようにしている。			○	七夕の日には、飾りいなり寿司とそうめんを手作りして、そうめんの具は利用者と一緒にいる揃えて、バイキング形式にして、個々が好きなものを選んでもらえるように工夫した。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日常会話の中から思いや希望をひきだし、暮らしに取り入れられるように支援している。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	生活のリズムが崩れないよう配慮しつつ、本人のペースで生活できるように支援している。					
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	環境にも配慮し、笑顔がみられるように明るく接している。	○			◎	敬老会や父の日、母の日などは、感謝の言葉を伝えて余興やゲームなどを楽しくしている。利用者は「こんな誰かしてくれよか」と言って喜んだようだ。クリスマス会には、ビンゴゲームをしてプレゼントを用意した。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	少しの表情の変化を見逃さないように注意しつつコミュニケーションをとり、支援につなげられるようにしている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修で学ぶ機会を作っている。人生の先輩であることを忘れず声掛けなどに注意している。	◎	◎	◎	奇数月に内部研修を行い学んでいる。お盆の迎え火や送り火を事業所で行い、ご先祖様に手を合わせる機会をつくったり、厳島神社の輪越に個々が枕の下に敷いて寝た寝形を奉納したりして、利用者が大切にできたことを重視した支援に取り組んでいる。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	大きな声での声掛けや命令口調で声をかけてしまっていることがある。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	他者から見えないよう環境に注意し、不安なく行えるように配慮している。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室は入居者の自宅と同じであることを忘れず、入室時には、必ず声掛けとノックをしている。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	内部研修で学ぶ機会を作り理解した上で、個人情報の取り扱いには十分注意し、遵守できている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	出来ることを出来る方にもしてもらい、助け合って生活できるようにしている。また、助けられた時などには感謝を伝えるようにしている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	馴染みになれるように職員が間に入りコミュニケーションをとれるようにし、支え合える関係になれるようにしている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	◎	座席の位置を工夫し、関わり合いを持ちやすいようにし、いい関係が築けるように努めている。			◎	誕生日には、ケーキとプレゼントを用意して祝っており、他の利用者から一言ずつ、本人へお祝いの言葉をかける場面をつくっている。涙もろい人が誕生日のプレゼントに「ありがとう」と言って泣くと、「よかったなあ」と言ってもらい泣き止むような利用者もいる。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	大きなトラブルにならないように注意し、間に入り対応できるようにしている。また、個別にゆっくり話をする時間を作り不安などを解消できるようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメント時に確認している。友人関係は本人から話して下さることもある。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族から情報収集を行うようにしている。また、本人との会話の中から情報を収集している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	友人が面会に来ることはあったが、馴染みの場所に行くことはあまり出来ていない。特に面会中止・外出自粛になってからは友人とも会えていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	いつでも面会に来てほしい事を伝えるようにしている。お部屋でゆっくり過ごしてもらえている。現在は面会中止中の為出来ていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出自粛の影響もあり、入居者の希望に沿った外出は出来ていない。近所への散歩や外気浴はできている。	○	○	△	春には公園に桜を見に出かけた。マスクを付けて、散歩したりする機会が少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の方より行事の誘いをいただき、外出支援につなげている。今年度は新型コロナウイルスの影響で行えていない。				ペランダに出て過ごす機会をつくっている。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	本人の体力などに合わせて、車椅子でも行ける場所を選び外出できるように取り組んでいる。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	日常会話の中から本人の思いを聴き把握することは出来ているが、実際に行くことは出来ていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修等で学ぶ機会を作っており、情報共有もしている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の日課に体操を取り入れている。車いすから椅子への移乗など長く立位をとるなど、日常動作の中で筋力低下を防ぐように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	時間がかかっても、本人のペースでできるように支援している。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントや日常会話の中から見つけている。				室内での行事の機会を多くつくっている。わかば夏祭りを行った際には、利用者も看板やゲームなどに使う小物づくり、準備段階からかわった。屋台の食べ物や飲み物を金券で買うなど雰囲気味わえるように工夫した。動きたがらないような利用者について、午前中、1階まで新聞を取りに行く役割をつくり、介護計画に挙げて支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	1人1人少しでもできることは挑戦してもらい、役割を持ってもらったり出来た時の喜びを感じてもらえるように取り組んでいる。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地方祭や運動会など地域の行事に参加している。今年は新型コロナウイルスの感染予防の為、中止になり参加できなかった。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご自宅で愛用していた服を持ってきてもらうことで、好みなどを把握するようにしている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	日常会話の中から情報収集している。髪形などはご自分で美容師に伝えてカットしてもらっている人もいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を少なくし選びやすいようにするなどの工夫をして支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせて衣替えを行い、季節に合ったおしゃれが出来るように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	他の方からわからないように、そっと直すようにしている。掃除は座席を本人が離れた時に行うようにしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	入居の際に、行きつけの理美容を聞き支援につなげようとはしているが、実勢には車椅子では行けないなどの事情もあり行くことが出来ていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人に似あう髪形や洋服が着られるようにしている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さ・楽しみを研修で学んだ。栄養にも配慮しつつ楽しんでもらえるようにしている。				数日前から新聞のチラシをみて「うなぎが食べたいな」と話したりして、土用の丑の日を楽しみに待って食事を楽しんでいる。 秋祭りには、島で暮らしていた人の馴染みの味のちらし寿司を再現した。 正月には「ビールか日本酒が飲みたいな」と希望があり、いろいろ考えてノンアルコールビールで乾杯した。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  配膳する時には、職員が「今日はお魚にしてみました」等、声をかけるようにしている。 食事をみて「わあ、きれい。」「おいしいね。」と感想を言う利用者があり、盛り付けは彩りを良くして食欲が増すように気を付けている。  定期的話し合う機会は持っていない。 食事内容や献立、調理方法については、その場で口頭で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	味見や食器洗い・簡単な下準備をしてもらっている。献立も相談したり、昔作っていた料理など教えてもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の方の発揮、自信、達成感につなげている。	△	簡単な作業でも感謝を伝えることで、出来たという自信を持ってもらえるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居の際のアセスメント時に聞き取るようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	苦手な物やアレルギーの入居者には、別の物を提供するようになっている。広告などを一緒に見て季節の食材を見つけ、調理法など聞き献立に取り入れ、季節を感じられるようにしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	◎	1人1人に合わせてお皿を変えたり盛り付けに配慮している。体調に合わせて、本人と相談しつつ食事の形態を変更することもある。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時に自宅で使用していた馴染みの物を持ってきてもらうようお願いしている。			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事介助もあり、一緒に食べることは出来ない。同じテーブルに座り、声掛けやサポートをするようにしている。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	共有スペースの横にキッチンがあるので調理の音やにおいを感じてもらえるようにしている。また、ホットプレートを使う調理はフロアで行うこともある。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1人1人の体格や体重の増減にも注意しつつ、それぞれに合わせて量を盛り付けるようにしている。水分量・食事は毎日記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご家族に嗜好品など聞きとり提供できるようにしている。一度に摂取できない入居者には、数回に分けて提供するようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていない。彩り良いように注意し、偏りがないかなど職員同士で話し合うようにしている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食器乾燥機を使用するようになっている。まな板や包丁は次亜塩素酸で消毒するようになっている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修を受けて学んでおり、毎食後に口腔ケアを行っている。				口の中の健康状態に関しては、口腔ケア時の目視にとどまっている。異常があれば、歯科往診につなげている。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを介助で行っている入居者については日々確認し把握しているが、ご自分でされている方の口腔内状態はなかなか把握できていない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に来ている、歯科衛生士に必要時には相談している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後に口腔ケアを行っている。また、夜間は入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保てるようにしている。				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声掛けを行い、毎食後口腔ケアをしてもらえるようにしている。できる限りご自分でしていただき、磨き残しなどあれば介助するようになっている。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異変があれば、ご家族に連絡し歯科受診または歯科往診を受けられるように対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さを研修などで学び理解している。				ミーティング時におむつ使用の利用者について、必要性や適切性について話し合い検討している。夜間、トイレに行くまでが間に合わないような利用者について、パッドサイズを見直した事例がある。介護計画に「気持ちよく排泄できる」ことを挙げて取り組んでいる事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食欲の低下や不穏に繋がることがある事を理解して対応している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を使い、トイレで排泄できるようにパターンを把握するようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンに合わせて日中はトイレ誘導をし、トイレで排泄できるように支援している。状態の変化に合わせて、オムツ類の使用方法はミーティングなどで話し合うようにしている。	◎	◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量の変化はないかなど検討し、主治医にも相談し意見をもらい改善に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンを把握し定期的に声掛けをしている。落ち着きのない様子があれば、排泄の声掛けをすることもある。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	水分量や排泄パターン等ご家族に説明し、パッドなどの吸収用・通気性なども説明してから使用するようになっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中の状態や夜間の睡眠状態なども考慮し、使い分けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎朝ヨーグルトを食べてもらっている。食物繊維も取ってもらえるような献立を取り入れるようにしている。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴の方法や入浴時間の長さ・温度は、お一人お一人の好みに合わせるようにしている。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるように支援している。			○	本人の好みの入浴方法をとってもらえるように支援している。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			◎	洗身・洗髪などご自身で出来るところはしてもらい、新井の腰は声をかけたり介助するようにしている。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。			○	入居者と話し、理由を把握するようにしている。時間帯を変えたり、声掛けの方法を変えるなどの対応も行っている。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	入浴前にバイタルチェックを行うようにしている。前夜の睡眠状態や日中の状態も確認し、入浴の可否を見極めるようにしている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録に記録し、睡眠パターンを把握している。				約半数の人が医師と相談して睡眠導入剤を使用している。日中は活動的に過ごし、夕食後はテレビの音量を小さくするなどして、落ち着けるような雰囲気をつくっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活リズムを見直し原因を探り、活動できる機会を増やすなど夜間眠れるリズムが作れるように工夫している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	本人の状態について記録し、主治医に診察時などに報告するようにしている。落ち着く声掛けやどのような日に眠れないかなど職員とも話し合うようにしている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	表情やしぐさに注意し、お一人でゆっくりできる場面を作れるよう取り組んでいる。本人のペースでゆったり過ごせるようにしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話の希望があれば電話をするようにしている。また、職員が必要時連絡した際に、電話にできるか声をかけることもある。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	ご家族に何か書かないか声をかけたり、電話の希望があれば電話するようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話の希望があれば居室でゆっくり話してもらえようようにしている。いつでもかけられる事を伝える。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	代読したり、居室に掲示するようにしている。また、ご家族に連絡することもある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらったとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会の期間が開くと声が聞きたいとの声が聞かれることもあり、ご家族に電話連絡することについて説明し理解・協力してもらっている。ご家族にも、いつでも電話をつなげるので、電話連絡してきてほしいことも伝えている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の管理をすることは、自尊心を保つ意味もある事などを理解している。				/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現在は外出自粛中の為行くことは出来ないが、服や嗜好品の買い物希望があれば、ご家族と相談し一緒に買い物に行けるようにしている。施設内行事で、施設内通貨を利用して食事や飲み物を購入する機会を作っている。					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先への働きかけは行えていない。					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居時に説明し、ご家族と相談して所持する金額を決めるようにしている。必要時には使用できるように支援している。					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入居時に、話し合うようにしている。					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居者が金銭を管理していない場合は、建て替えて買い物を出納帳に記入、利用料の請求時にレシートをご家族に郵送するようにしている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採り入れられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご家族とも相談し、出来る限り希望をかなえられるように取り組んでいる。	◎		○	家族の都合に沿い、受診などを支援するケースがある。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関まわりに、季節ごとに飾り付けをしている。ウェルカムボードを設置している。	◎	○	○	事業所の入り口にウェルカムボードを置き、季節の飾り付けをしている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みやすさの心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない暖かな共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくり再現しているか等)。	○	入居者と作成した季節の飾りを飾っている。いつでも新聞や雑誌が読めるように見えるところに置いておくようにしている。	◎	◎	○	評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	カーテンやよしずを使い、光の調整を行っている。清掃は毎日行い清潔を保つようにしている。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	毎月季節の飾り付けをし、一緒に作成などすることで季節を感じてもらっている。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファを設置しており、1人でゆっくり過ごせるようにしている。座席の工夫をし、気の合う入居者同士と一緒に過ごせるようにしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	のれんを使用し見えないようにしている。扉の開閉に注意している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室内で使用するのは、新しく購入したものではなく、ご自宅で愛用していたものを持参してもらえるようにお願いしている。	◎			評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	表札をつけており、場所がわかりやすいように工夫している。足元など転倒などの事故につながるようなものに動線にコードなどがないように配慮している。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	柵など整理整頓し、混乱を招かないようにしている。また、はさみなど危険なものは目につく場所に置かないようにしている。					
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞などはいつでも見られるように配置している。ほうきやちりとりもフロア内に見える場所に置いており、いつでも使えるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	行きたいときに外に出られないことで、閉塞感を感じ不安が強くなるなどの弊害があることを理解している。	◎	◎	◎	日中、玄関などには鍵はかけていない。職員は、「施錠しないことは当たり前」と認識している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に施設の状態などについて説明している。事故防止のためにも、必要時には話し合い理解を図っている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	エレベーターには開閉時に音が鳴るものを設置し、出入りが把握できるようにしている。					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシートなどで確認し把握している。				/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	食事や歩行状態、会話の様子など、普段と違うことがあれば小さなことでも記録し、申し送り時に報告し早期に対応できるようにしている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	往診時にコミュニケーションをしっかりととり、気になる事や小さな変化でも報告しやすい関係づくりをしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時に歯科などかかりつけがあったか確認している。病院受診については、ご家族と相談し希望の病院が受診できるように、主治医に相談している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	適切な医療が受けられるよう、ご家族希望の病院に情報が伝えられるように主治医に紹介状を書いてもらうなど支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院前にご家族に相談し合意を得ている。状況に合わせて必要があれば再度ご家族に連絡し話し合うようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーにより、日常の様子や特に注意してほしいことなどの情報を提供するようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	お見舞い時に担当看護師から情報を得たり、地域連携室と連絡を取り合い早期退院につなげられるようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	入院設備のある大きな病院とは、関係づくりが行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	小さな変化でも気づきがあれば、協力医療機関に連絡し相談するようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医にいつでも連絡がとれる体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日起床時にはバイタル測定を行い記録している。変化があればすぐに協力医療機関に連絡するようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情報を確認している。また、情報がいつでも確認できるようにファイルしすくみられるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	確認を複数回行うような体制にしている。状況に合わせて対応の再検討もしている。服薬時は、飲み込んだことを確認してそばを離れるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用について薬情報で確認し、状態変化がないか注意している。異常があれば協力医療機関に連絡するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態を介護記録に記入しており、往診時に情報提供している。往診時以外でも、必要に応じて連絡し情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に、現在の意向を確認するようにしている。終末期との判断があった場合に、再度意向を確認し対応について話し合いをもち、方針を共有するようにしている。				医師や家族、職員で話し合い方針を共有して支援している。 アセスメントシートには、本人の看とりにについての願いや想いを設けており、介護計画作成前に情報を更新している。 この一年間では、本人のことをよく知る家族の意向を踏まえて、事業所内で自然なかたちの看とりを支援した事例がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ご家族の意向を確認し、職員の意見や協力医療機関がどこまで支援してくれるかなどを話し合い、方針を決め共有するようにしている。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の感じたことや不安を聞き把握し、日々のかかわりの中で力量を把握するようにしている。入居者・家族・職員それぞれが安心した支援が行えるように見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	終末期の対応についての話し合いの際に、ご家族が納得したうえで対応できるように、十分説明し理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	協力医療機関と日々連携を図り、状態に合わせた対応など相談できるような体制を整えている。ごまめにご家族と連絡を取り合うようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	来訪時や電話連絡の際に、不安に感じている事・悩みや思いなどの話を聞く時間をもつようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	年1回、感染症について社内研修を実施し学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成しており対応できるようにしている。訓練は行っていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政や保健所より情報提供があった際は職員に情報提供し、情報の共有を必要であれば対応に取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	行政や保健所からの情報や往診時に協力医療機関での感染者情報を聞き、地域での発生状況などの情報を得るようにしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時に、手洗いがいを行うようにしており、マスクを着用している。入居者は外出後は手洗いをしてもらっている。また、玄関では手指消毒できるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	常に連絡をとりながら支え合えるような関係づくりに努めている。月1回様子をお手紙に書き報告もしている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 月1回、ユニット毎にわかば便りを作成しており、誕生会や行事などの様子を写真入りで報告している。また、職員が日頃の様子を手紙に書き同封している。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	面会中止中のため、対応する機会がない。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	月1回のお手紙での行事のお知らせをしている。面会中止中の為参加はない。	○		評価困難		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月わかば便りを送っている。1か月の様子を書いた手紙を送っている。面会中止期間は、個別に写真を送っていた。	◎	◎	◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話連絡の際に、不安なことなど聞くようにしており、現在の様子だけでなくその後の様子を伝えるようにしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	電話や来訪時に、心身の状態変化などについて話し、現在の状態を理解してもらえようように支援している。また、対応法なども話し合うようにしている。					
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	その都度、本部より文章にて報告している。	△		○		管理者やケアマネジャーの交代があれば法人から報告している。運営推進会議時に、感染症防止策のためパーティションを購入したことを報告している。会議録は、毎回、家族に送付している。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会などの家族同士の交流の機会は作れていない。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	状態の変化があるたびに考えられるリスクについて説明し、対応策を話し合うようにしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	◎	面会時には必ず明るく声をかけ、入居者の状態を話しながらご家族の希望や思いを聴けるようにしている。			○		電話で詳細に伝えて意見等を聞いている。平日の日のみオンライン面会を行えるようにしている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には、1つ1つ説明している。質問があればその都度説明し、理解・納得が得られるようにしている。				/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご家族に納得していただけるように説明し、話し合いをもつようにしている。転居先を探す際、相談できる機関などを紹介する支援をしている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	本部より文章・口頭での切間家を行っている。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議の参加者して下さっている地域の方には、説明し理解を図っている。		◎		公園まで散歩する時に庭の花をくれる人がいるなど、近所の人が親しくしてくれる。運営推進会議の報告書は、職員が地域メンバーのお宅にポストインしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域行事には出来る限り参加し、地域に共に住んでいる事を知ってもらい顔なじみになれるように働きかけを行っている。散歩で顔をあわせたら、あいさつを心掛けている。		○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	誕生日に絵手紙をくださる地域の方が出来たりと支援してもらっている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	面会中止中のため、できていない。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りあつちなど、日常的なおつきあいをしている。	×	散歩や買い物中にあいさつを交わしたりしていましたが、現在は外出自粛中の為出来ていません。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	公民館や地域の行事に参加することで生活に広がりがもてるようにしている。現在は、外出自粛中の為行なっていません。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域にある資源は把握できるように努めている。					
		h	地域の人たちや周辺地域の施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	現在、新型コロナウイルスの影響の為、地域との関りもつことが出来てません。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方は毎回参加されているが、ご家族の参加は少ない。	○		○	会議は、地域住民と地域包括支援センターなどで書面開催で行っている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	外部評価後の運営推進会議で報告するようにしている。			○	活動報告、事故報告などを行っている。 外部評価実施後は、目標達成計画を立て報告した。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	議題に関する意見や感想をいただき、運営に活かすようにしている。新型コロナウイルスの影響で現在は文書開催の為、ご意見等は少ない。			◎	△	地域包括支援センターからの感想や意見がある。取り組みに活かしたり、状況や結果を報告するには至っていない。 会議メンバーから意見をもらえるような取り組みを工夫してほしい。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加者はほぼ固定されている。開催日時も固定している。				◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	ご家族には議事録を郵送し公表している。					
IVより良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	スタッフルーム・フロア・業務日誌に揭示し、共通認識がもてるようにしている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居の際に伝えるようにしている。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年6回の内部研修を実施している。外部の研修は、研修案内を回覧し、希望者が参加できるようにしている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	成長カードを利用し年間の目標を立てることで、日々の振り返りを行いスキルアップにつながるよう取り組んでいる。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者より日々の様子や勤務状態を報告している。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	管理者は地域のグループホーム・小規模多機能事業所連絡会に参加しているが、他の職員は交流の機会はあまりない。					
e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員に対しては、管理者が悩み事など何か話を聞く機会を作っている。必要時には、代表へ報告し相談にのってもらっている。	○	◎	○		休憩時間を取っている。 休暇が取れるようにシフトに配慮している。 職員の定着に向けた取り組みとして「成長カード」を活用している。職員個々に目標を立て、みんなで評価し合うようなくみで、管理者は効果を感じていた。		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	年1回研修を受けて学んでいる。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングや身体拘束適正化委員会にて話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	対応や声掛けの仕方は適切に注意を払っている。発見時の対応方法や手順についても研修などの学びを通して知っている。				○	内部研修時に勉強をしている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々職員と話をするようにしており、様子に変化がないか注意している。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	年1回の内部研修で学ぶ機会を作っており、理解している。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束適正化委員会を実施しており、事例としてあげ対応などについて話し合う機会を作っている。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族からの要望はない。あった場合は、弊害などについて理解していただけるように話し合いをもてるようにしている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修などを通して学んでおり、理解できている職員もいる。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	実際に相談を受けたことはないが、必要時には情報提供や相談にのる支援が出来るようにしている。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターとは、日頃から連絡をとるようにしており、連携が取れるようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成しており、職員に回覧しており周知できている。マニュアルをすぐに確認できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	年に数回消防署にて救急救護の研修を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書・ヒヤリハットを作成しており、発生当日対応などについて話し合っている。また月1回のミーティングでも再度検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングでそれぞれの入居者の今の状態での注意すべき点など話し合うようにし、事故につながらないように取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応のマニュアルはあるが、職員と適宜対応法など検討はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	前回の評価以降、苦情は寄せられておらず対応していない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	前回の評価以降、苦情は寄せられておらず対応していない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の会話の中やモニタリング時に要望など聞く機会をもつようになっている。			×	利用者が運営について意見等を伝えるような機会はほとんどつくっていない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面談時に、ご意見や要望がきけるように話をする機会をもつようになっている。	◎		△	電話で報告して意見を聞いている。面談方法についての意見等がある。運営推進会議(書面会議)には参加していない。議事録の送付のみに止まっている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に説明はしているが、それ以降は情報提供など出来ていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場によく来られている。報告書など提出した際には、内容について話しを聞きに来られ対応してくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングで話を聞くようにしており、よりよい支援が出来るように職員と検討している。				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回自己評価を行っている。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	新しい気持ちを持ったり、課題が明確になることで職員が同じ方向に向くことができ、よりよい支援につながる機会として活かしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員と協力し合い目標の達成に向けて取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標計画については説明しているが、継続した報告は行っていない。	○	○	△	外部評価実施後は、目標達成計画を立て報告した。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標について説明しているが、運営推進会議では成果の確認は出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、回覧しており周知できている。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	火災避難訓練は、日中と夜間想定の実施している。風水害の避難訓練は事業所全体で行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は行っている。非常用食料等は備蓄できていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	夜間想定避難訓練には地域の方にも参加してもらっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度は地域の方は不参加だった。	○	◎	○	3月に、消防署の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。火災発生時には、町内見守り隊が駆けつけてくれることになっている。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練に参加し、ネットワークづくりが出来るように心がけている。今年は新型コロナウイルスの影響で参加できなかった。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域で開催される研修に参加する機会はあるが、情報発信や毛初活動は取り組めていない。				相談支援する取り組みは行っていない。    現在は協働した活動は行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	地域からの相談はないが、相談等あれば支援出来るようにしている。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	アビリティセンターからの研修生の受け入れや職場体験の受け入れを行った。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域などと連携をとり活動することは出来ない。			×	